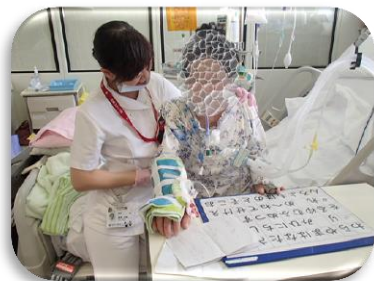


医療・急性期		入院が長期化し，退院後の生活動作に不安を訴えた心臓血管外科手術後患者の一症例		
事例 身体障害 急性期	年齢：60歳代 性別：女性 診断名：僧房弁置換術，慢性心不全，呼吸不全		介護保険：未申請	
	<p>【介入までの経緯】僧房弁置換手術後に心不全と呼吸不全が発症し，入院が長期化した。在宅酸素療法導入し自宅退院の方針が決定した後も夫と2人生活なため，退院後の生活動作に不安を訴え，具体的な退院計画がたてられない状態が続いた。</p> <p>【本人・家族の生活目標】・酸素ポンペを牽引しながら庭に出て，片づけを含む剪定作業をおこなう。（ガーデニング作業） ・酸素供給チューブの取り回しに注意しながら調理をおこない，食卓まで食事を運ぶ。（調理作業） ・1人で安全に留守居ができる。（夫の希望）</p>			
	開始時（手術後28病日）	中間（手術後125病日）	退院時（手術後170病日）	
ADL・IADLの状態	気管切開，人工呼吸器管理中 ベッド上で過ごし，ADLは全介助状態	生活行為向上マネージメント導入 病室でのADLは自立（入浴や歩行，段差昇降は見守りが必要） IADL:酸素ポンペを牽引しながらの作業に介助を要する	ADLは全自立し，繰り返した試験外泊時におこなった調理やガーデニング作業では夫の介助を必要しなくなった。退院後は夫婦で調理やガーデニング作業を楽しむ様になり，夫の外出時は1人で留守居をし，徐々に携わる家事作業が増えていと笑顔で話された。	
生活行為の目標	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器離脱し，行動範囲が拡大 安全な経口摂取 離床動作，セルフケア自立 	<ul style="list-style-type: none"> 酸素ポンペを牽引しながらの歩行や段差昇降が安全にできる 酸素ポンペを牽引，操作しながらガーデニング作業と調理動作ができる 	【考察】病前は夫と2人生活であり，主婦として家事全般やガーデニングをおこなうなど活動性は高かったが，家事動作が遂行困難なことによる役割喪失や趣味活動の喪失，病前と現在の状態とのギャップなどが退院に消極的な姿勢となって表れたと考えられた。そこで症例が望む具体的な生活行為に注目し，その遂行を目標とすることにより，作業療法に積極的に取り組めたばかりでなく目標を達成できたことをきっかけに試験外泊に取り組み，自宅退院までつながったと考える。	
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸練習 摂食嚥下練習 離床動作練習 筋力，運動耐容能増強練習 セルフケア，ADL練習 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅酸素療法用の酸素ポンペの操作練習 酸素ポンペを牽引しての移動練習 調理練習 ガーデニング作業練習 増悪予防のための自己管理指導 		



本人の望む作業活動ができるようになり，自宅退院が可能となった。